

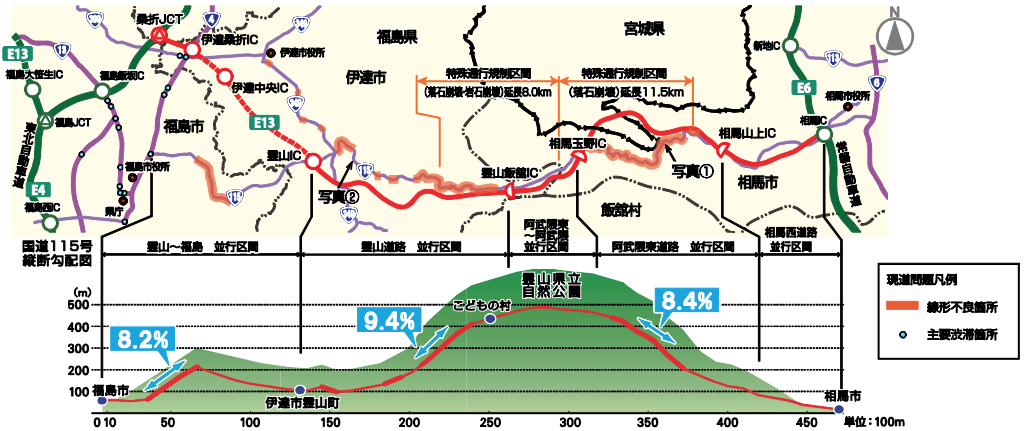
相馬福島道路の整備効果

現状の問題点

相馬～福島間を繋ぐ国道115号は、信頼性や速達性の改善が求められています。

- ◎国道115号(相馬～福島)は相馬～福島間を繋ぐ主要な道路であり、東日本大震災では沿岸被災地の救助・救済活動のために利用される等、防災面においても重要な位置付けにあります。
- ◎しかし、多数の線形不良箇所や事前通行規制区間等があり、信頼性や速達性の改善が求められています。
- ◎平成27年には大雨による道路崩壊で約1週間の全面通行止めが発生し、物流、生活、観光等、多方面に大きな影響が出ました。

相馬～福島を繋ぐ「命の道」 東日本大震災からの力強い復興に貢献します。



①線形不良箇所(R=25m・l=8.4%)



②道路崩壊発生箇所(H27)(約1週間全面通行止)



③幅員狭小等により大型車のすれ違いが困難



④緊急輸送道路として利用される国道115号



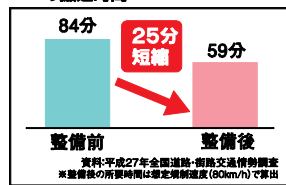
整備効果

安心・安全な救急医療を支援!

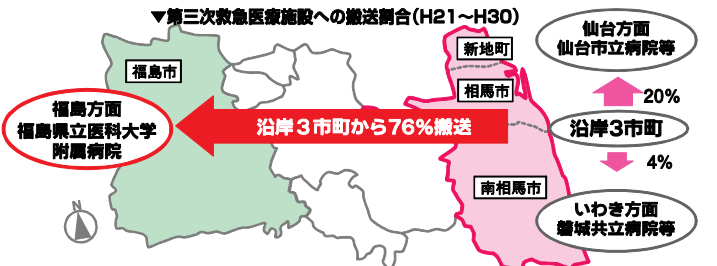
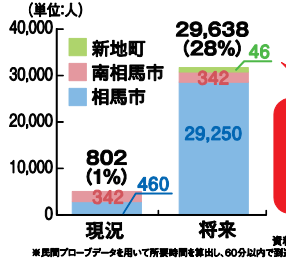
- ◎相馬市等沿岸部は、第三次救急医療施設がないため、福島市にある福島県立医科大学附属病院へ約8割が搬送されています。
- ◎線形不良が多く、消防署からは搬送時の課題が指摘されています。

相馬市から福島県立医科大学附属病院(福島市)までの搬送時間が25分短縮、救急医療施設への速達性、輸送時の安定性向上に期待

▼相馬市役所→福島県立医科大学附属病院への搬送時間



▼沿岸3市町の福島県立医科大学附属病院60分圏人口の変化(単位:人)



▼沿岸3市町から第三次救急医療施設への搬送件数(H21～H30)

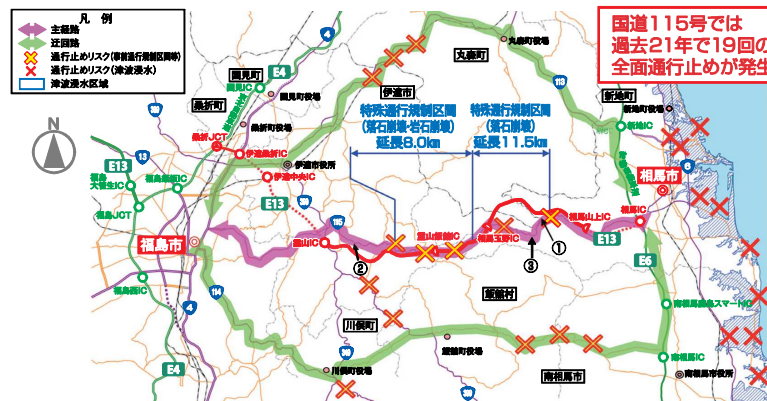
全搬送件数:1,163件/10年
うち、福島方面 882件(76%)
うち、仙台方面 238件(20%)
うち、いわき方面 43件(4%)

※資料:相馬地方広域消防本部

悪天候や災害時においても寸断されない信頼性を確保!

- ◎相馬市～福島市間は主経路となる国道115号に事前通行規制区間などの通行止めリスクが存在します。
- ◎代替路(国道349号・原町川俣線等)も通行止めリスクが存在します。
- ◎相馬福島道路の整備により、悪天候や災害時においても寸断されないネットワークが形成され、安全確実な交通の確保が期待されます。

▼福島県東北地方と相馬地方間の通行止めリスク(H11～R1)



《航空運送企業の専門運送業者の声》

- ◆冬期はカーブや勾配がきつい国道115号を避け、国道113号で白石ICから東北道を利用しているが、迂回する分、ドライバーの拘束時間が増加し、時間管理が困難な状況。
- ◆相馬福島道路が完成すれば、天候・災害を気にすることなく利用でき労働管理の心配が少なくなる。